

英語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて

☒ 知識及び技能	☒ 思考力、判断力、表現力等
【話すこと[やり取り]】【話すこと[発表]】【書くこと】学習した言語材料を用いて、事実や自分の考えなどを話したり書いたりすることができる技能を身に付ける。	【話すこと[やり取り]】日常的な話題について、英語を聞いたり読んだりして得られた情報や表現を基に、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	・「書くこと」に苦手意識を抱える生徒が多く、学習した内容を定着させることに課題がある。☒ア ・英語で聞かれたことに答えることはできるが、相手に質問する等、会話を継続させる力を身に付ける必要がある。☒イ	・「話すこと」の活動では、活用できる表現を具体的に提示することで、会話を継続する力を高める。また、言語活動は易しいものから段階的に取り入れ、「話すこと」と「書くこと」を関連付けて指導することで、生徒が意欲的に取り組めるようにする。	・週1～2程度	ALT とのやりとりやグループの活動を通して、「話すこと」の力を付けることが出来た。ロイロノートを活用し、「書くこと」の活動への意欲を高めているが、課題を抱えている生徒もいる。
第2学年	・「話すこと[やりとり]」や「書くこと」において、既習事項と新しく学習する内容を活用してより詳しく、相手に伝わる表現を工夫することに課題がある。☒ア ・英語で聞かれたことに答えることはできるが、相手に質問する等、会話を継続させる力を身に付ける必要がある。☒イ	・「話すこと」の活動では、英語を話す機会を増やすとともに、活用できる表現を具体的に提示することで、会話を継続する力を高める。 ・授業の「話すこと」の活動で使った表現を実際に書きだすなど、「話すこと」と「書くこと」を関連付けて指導することで、生徒が意欲的に取り組めるようにする。	・週1～2程度	单元ごとに、「話すこと」や「書くこと」のパフォーマンステストを通して、既習事項と新しく学習する内容を活用して表現を増やしていくことが出来た。タブレットで調べることが出来るようになり、定着に課題が残る生徒もいる。
第3学年	・「話すこと[やりとり]」や「書くこと」において、既習事項と新しく学習する内容を活用してより詳しく、相手に伝わる表現を工夫することに課題がある。☒ア ・短く聞かれたことについて答えることはできるが、相手を説得したり、分かりやすくするために順序立てて述べたり、一言付け足して答えることに課題がある。☒イ	・英語を話す機会を増やすとともに、具体的な会話例を提示したり、ワークシートを用いて、各自が会話の振り返りを行ったりすることで「話すこと[やりとり]」の力を高める ・授業の「話すこと」の活動で使った表現を書いたり自由英作文ノートを活用したりするなどして、「書く」ことの力を高める。	・週1回程度 ・月1～3回程度	話すこと[やりとり]に対して、意欲的に取り組む生徒が多く、ALT と自分の話したいテーマで1～2分程度話すことができるようになった。「書くこと」に対しては、翻訳ソフトを活用する生徒が多く、定着には課題が残る生徒もいる。

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について

■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について

全学年

- ・学習者用デジタル教科書を活用し、自分に合った学習方法を選択している。【重点：個別】
- ・ロイロノートを活用し、作品を共有し合うことで「対話的な学び」を促す。【重点：協働】

1年 振り返りシートの活用

- ・単元の初めに学習の見通しをもつ。
- ・単元末に達成状況を振り返ったり、次の単元に向けての具体的な目標を立てたりする。

2年 振り返りシートの活用

- ・単元末に達成状況を振り返ったり、次の単元に向けての具体的な目標を立てたりする。

3年 振り返りシートの活用

- ・単元末に達成状況を振り返ったり、次の単元に向けての具体的な目標を立てたりする。